



株主の皆様へ

第73期 中間報告書

〈2020年1月1日～2020年6月30日〉



山崎製パン株式会社

証券コード: 2212

株主の皆様へ



目次

株主の皆様へ	1
経営基本方針	2
事業の概要	3
セグメント別の状況	5
製品情報	9
社会貢献への取組み	11
財務諸表（連結）	13
財務諸表（単体）	15
YAMAZAKIインフォメーション	16
株式の状況等	17
グループ概要	18
株主メモ	裏表紙

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申しあげます。さて、ここに当社グループ第73期事業年度の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申しあげます。

当第2四半期（2020年1月1日から2020年6月30日まで）におきましては、新型コロナウイルスの感染拡大が続き、世界の経済、社会に大きな影響を及ぼしました。このような事態に対し、当社グループは、「21世紀のヤマザキの経営方針」、新しいヤマザキの使命に導かれ、科学的根拠に立った感染防止対策として、37.2℃以上で微熱または発熱のある者、身体のだるさ、息苦しさ、味覚・嗅覚異常の自覚症状がある者を自宅待機として、日々事業所別自宅待機者の数を管理する体制とするとともに、全国各工場の生産体制を維持し、日本の主食の一部となったパン・米飯類や菓子類を安定的に供給することが当社に与えられた使命であると考え、最善の努力を傾けてまいりました。

このような状況の中で、当社は、食パンにおいてはヤマザキ独自の技術により科学的根拠の上に立った更なる品質向上に取り組むとともに、節約志向・低単価志向に対応した製品を強化し、菓子パンの主力製品にルヴァン種等を活用して品質向上をはかるなど、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進してまいりました。

当第2四半期の業績につきましては、巣ごもり需要もあり食パン、食卓ロール、洋菓子の売上が伸長し、デイリーヤマザキ事業を除く山崎製パン本体では増益を達成いたしました。しかしながら、来店客数の減少で苦戦したコンビニエンスストアチェーンとの取引が減少し、フレッシュベーカリー等の小売事業が休店や営業時間短縮の影響で低迷したことにより、連結では減収減益となりました。

下半期につきましては、新型コロナウイルス感染拡大が続く中で、科学的根拠に立った感染防止対策を継続しつつ、お客様の節約志向が強まる市場の求めに合致した良品廉価・顧客本位の製品を充実強化するとともに、各部門毎に女性製品開発担当者を有効に活用し、高品質・高付加価値製品を開発してまいります。また、日次管理・週次管理で日々の仕事の精度を高め、特にお客様の求めの変化が大きい小売事業の業績向上に向けて知恵と知識を最大限に活用し、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略を推進してまいります。

今後、一段と厳しさが増す経営環境の中で成長・発展すべく、このたび、山崎製パンの「経営基本方針」を一部改定させていただきました。当社はこの「経営基本方針」を、当社グループ全体の合意事項とし、21世紀のヤマザキグループの前進を期すため、グループ一丸となって努力してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

2020年8月

代表取締役社長

飯島延浩

経営基本方針

綱領

(1) わが社は、企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし個人の尊厳と自由平等の原理に基づき、いのちの道の教えの言葉に従い、困難に屈することのない勇氣と忍耐とによって神のみどころにかなう永続する事業の実現を期すこと。

(2) われわれは、常に良きものへ向って絶えず進歩しつづけるため、各人が自由な決心に基づき、正しき道につき、断固として実行し自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進すること。

具体方針

二十一世紀のヤマザキは、新しいヤマザキの精神と新しいヤマザキの使命に導かれて、いのちの道の教えの言葉に従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する「部門別製品施策・営業戦略」、「小委員会によるなせなせ改善」を行ない、次の六つの具体方針の実践、実行、実証に邁進する。

- ① 最高の品質と最善のサービス（今日到達しうるベストクオリティー・ベストサービスの実践、実行、実証）を目標とし品質は今到達しうる最高のものであり、新鮮であること。それは製品、組織、仕事、工場、財産並びに設備のなかに表わさるべきこと。
- ② 充実した効率のよい積極的な組織体を作りあげ、そして維持拡充していくため、あらゆる可能な努力を注ぐこと。その組織体の人々は、会社を信頼し、仕事が好きであり、普通ではできない仕事を完遂することが個人的な願望にまでなっていること。
- ③ 入手できる限りの、事業に独特な要求に適合した最善の設備と施設を備えること。この設備や施設の調達は、維持運営が経済的であることと会社の組織に最も仕事をしやすい道具を与えるという二つの観点から考えられること。
- ④ 産業界と一般社会との間に協力関係を創り出し、維持していくため、実行可能な一切のことを行なっていくこと。
- ⑤ 業務の遂行に関するすべての決定を行なうにあたって、常にその一件を処理する上での便宜よりも、事業全体にとって何が正しいか、何が最善であるかを中心に考えること。
- ⑥ 顧客に接するときは、常に公明正大で、かつ相手が何を欲しているかを充分に考慮すること。配達や品質やサービスについてはその成果が最優秀なものになるように努力すること。

二〇二〇年八月四日改定

（傍線は変更箇所を示します。）

当第2四半期における連結業績の概況

売上高 **5,078億 26百万円** (対前年同期比 96.9%)

営業利益 **98億 68百万円** (対前年同期比 73.3%)

経常利益 **109億 2百万円** (対前年同期比 73.8%)

親会社株主に帰属する
四半期純利益 **48億 99百万円** (対前年同期比 62.4%)

当第2四半期の事業の概況

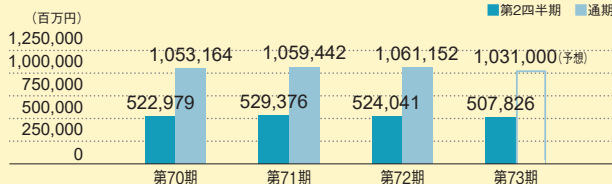
当第2四半期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が拡大し、政府の自粛要請や4月上旬の緊急事態宣言の発令により経済活動が制限されました。5月下旬には宣言が解除され持ち直しの動きが見られましたものの厳しい状況が続きました。

当業界におきましては、外出自粛や在宅勤務等を背景に、巣ごもり需要が高まり量販店やドラッグストアを中心に食パンや食卓ロールの売上が増加する一方で、コンビニエンスストア等では来店客数の減少により菓子パンやサンドイッチ、おにぎりなどが伸び悩みました。ま

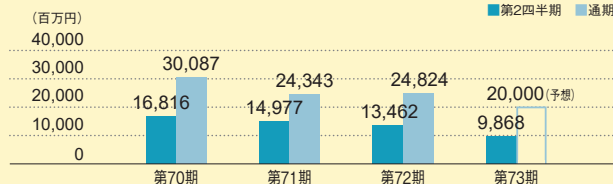
た、大型商業施設の休業や営業時間短縮の影響を受け、ベーカリーカフェの売上が低迷しました。緊急事態宣言が解除され自粛要請が緩和されましたものの、消費者の節約志向の強まりもあり厳しい経営環境が続きました。

このような情勢下でありまして、当社グループは、わが国の食生活の基幹を担う製パン業としての社会的使命のもと、21世紀のヤマザキの経営方針に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大の中で製品の安定供給を維持するため、出勤前の検温で37.2℃以上の発熱がある従業員は自宅待機とすることに加え、発熱がない場合でも重い倦怠感や味覚・嗅覚がない等の体調異常の自覚症状がある場合には自宅待機とし、この自宅待機者数を日々管理するとともに、WEB会議等を活用して事業所間の出張を制限するなど、科学的根拠に基づいた感染防止対策を実施しました。また、多人数による会食の禁止や感染の恐れのある施設を避けるなど、公衆衛生上の遵守事項を定めて徹底をはかりました。緊急事態宣言解除により自粛要請が緩和された後も感染防止対策を継続し、日々管理・週次管理により日常業務の着実な遂行に努めました。生産面におきましては、食パン需要の急増

売上高



営業利益



に対応するため、4月中旬から、休止していた大阪第一工場の食パンラインを再稼働し、安定供給に努めました。このような状況の中で、食パンにおいてはヤマザキの技術により科学的根拠の上に立った品質向上に取り組むとともに、「厳選100品」を中心とした主力製品にルヴァン種等を活用した品質向上をはかり、市場動向に即応して、高品質・高付加価値・高単価製品を開発する一方で値頃感のある製品を投入するなど、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進しました。

当第2四半期の業績につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりコンビニエンスストアチェーンとの取引減少や休店等に伴うベーカリー等小売業の売上減少もあり減収減益となりました。

[セグメント別の状況は5頁から8頁のとおりです。]

通期の見通し

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、緊急事態宣言が解除され経済活動は再開されましたものの、新型コロナウイルス感染症の影響が懸念され厳しい状

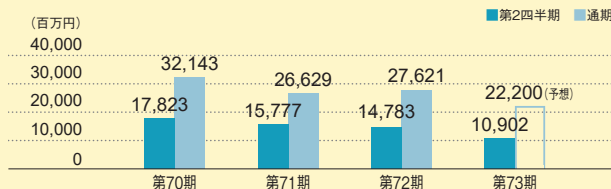
況が続くものと思われます。

当業界におきましても、消費者の節約志向が更に強まり厳しい経営環境が続くことが予測されますが、当社グループは、引き続き科学的根拠に基づいた感染防止対策を徹底して、食生活の基幹を担う製パン業としての社会的使命を遂行するとともに、市場動向に応じて低価格製品を充実し、秋のキャンペーンを活用して取扱拡大をはかるなど、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進してまいります。

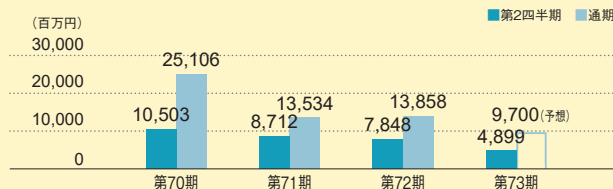
通期の連結業績見通し

売上高	1兆310億円 (対前期比 97.2%)
営業利益	200億円 (対前期比 80.6%)
経常利益	222億円 (対前期比 80.4%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	97億円 (対前期比 70.0%)
	[2020年8月4日 業績予想を修正]

経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益





セグメント別の状況

食品事業

売上高 **4,777億95百万円** (対前年同期比 97.1%)

94.1%
売上高構成比

食パン部門

売上高 **512億79百万円** (対前年同期比 101.8%)

10.1%

食パンは、主力の「ロイヤルブレッド」が大きく伸長するとともに、「ダブルソフト」が堅調に推移しました。また、ヤマザキの技術により科学的根拠の上に乗って品質を向上させた「超芳醇」シリーズが回復するとともに、ルヴァン種を使用し乳酸菌を配合した「ふんわり食パン」が伸長し、順調な売上となりました。



ロイヤルブレッド



超芳醇



新食感宣言ルヴァン



レーズンゴールド



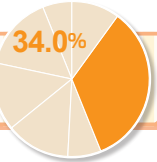
ダブルソフト



ふんわり食パン



モーニングスター
●リニューアル●



菓子パン部門 売上高 **1,727億69百万円** (対前年同期比 95.7%)

菓子パンは、「ルヴァンバターロール」などの食卓ロールや、「塩バターフランスパン」などのハードロールが伸長しましたが、コンビニエンスストア向け製品の伸び悩みや(株)ヴィ・ド・フランスなどベーカリーの売上減もあり、前年同期の売上を下回りました。



高級つぶあん



カレーパン

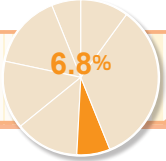


ルヴァンバターロール



塩バターフランスパン
(自家製発酵種ルヴァン使用)

和菓子部門 売上高 **346億20百万円** (対前年同期比 101.7%)



和菓子は、消費期限延長により主力の串団子や大福、まんじゅう、どら焼きが伸長するとともに、新たな取組みであるチルド対応の「クリームたっぷり生どら焼」が寄与し、前年同期の売上を上回りました。



豆大福



吹雪まんじゅう



串だんご



クリームたっぷり生どら焼



熟成厚焼きたまご風蒸しぱん

セグメント別の状況

洋菓子部門 売上高687億79百万円 (対前年同期比 102.7%)

13.5%

洋菓子は、2個入り生ケーキが高品質・高付加価値・高単価製品の寄与もあり伸長するとともに、チルド対応の「レーズンサンド」が順調に推移し、コンビニエンスストア向け製品が大きく伸長するなど、好調な売上となりました。



苺のショートケーキ



バスク風チーズケーキ



レーズンサンド



大きなツインシュー

調理パン・米飯類部門 売上高718億50百万円 (対前年同期比 90.2%)

14.2%

調理パン・米飯類は、調理パンにおいて「こだわりソースの焼きそばパン」や和紙包装のハンバーガーが好調でしたが、主要販路であるコンビニエンスストアにおいてサンドイッチやおにぎり等の販売が減少したこともあり、前年同期の売上を下回りました。

とろ～りとしたチーズの
ハンバーガー



紅鮭弁当



ざるそば定食



こだわりソースの焼きそばパン



大きなサンド
ミックス

紀州産南高梅



シーチキン
マヨネーズ

製菓・米菓・その他商品類部門 売上高 **784億95百万円** (対前年同期比 97.2%)

15.5%

製菓・米菓・その他商品類は、ヤマザキビスケット(株)の「エアリアル」や(株)東ハトの「ポテコ」などのスナックが伸長しましたが、(株)不二家においてコンビニエンスストアとの取引が減少したことや不二家(杭州)食品有限公司において第1四半期に工場が一時操業停止となったこともあり、前年同期の売上を下回りました。



チップスター



エアリアル



ポテコ



オールレーズン



カントリーマアム

流通事業

売上高 **234億20百万円** (対前年同期比 89.8%)

4.6%
売上高構成比

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、改めてデイリーヤマザキの使命として、ヤマザキパンの営業部門の最前線にある小売事業であるコンビニエンスチェーン運営事業に取り組み、21世紀のヤマザキの進む道を導き照らす光となることを掲げ、日次管理・週次管理を導入して日々の仕事の精度を高めてまいりました。また、デイリーヤマザキの商品部と当社生産各部合同の週次商品施策・営業戦略小委員会等を通して当社グループ商品の充実をはかり、デイリーヤマザキ一店一店の課題に取り組むとともに、店舗改装を計画的に実施し、デイリーホットの導入や店舗レイアウトの改善などヤマザキらしい店舗づくりに取り組みました。

当第2四半期の売上は、在宅勤務等による来店客数の減少や休店、営業時間短縮の影響に加え、店舗数の減少もあり前年同期を下回りました。

当第2四半期の売上は、在宅勤務等による来店客数の減少や休店、営業時間短縮の影響に加え、店舗数の減少もあり前年同期を下回りました。

当第2四半期末の店舗数

1,434店

(前年同期末差 20店減)

●デイリーヤマザキ

1,070店

(前年同期末差 17店減)

●ニューヤマザキデイリーストア

350店

(前年同期末差 2店増)

●ヤマザキデイリーストア

14店

(前年同期末差 5店減)



デイリーヤマザキみさと団地店 (埼玉県三郷市)

品質とおいしさ「ロイヤルブレッド」

「ロイヤルブレッド」は、「品質とおいしさ」をテーマに、当社独自の技術と製法により、“小麦本来の味と香り”を活かして焼きあげた、バター風味とコクのあるしっとりとした食感が特長の食パンです。

良質な上級小麦粉とバターを使用しており、トーストすると香りが引き立ちサクッとした歯切れの良い食感を、また、そのまま“生”でお召しあがりいただくと口どけの良い柔らかな食感をお楽しみいただけます。

2012年の発売以来、多くのお客様からご好評をいただいております。



「ロイヤルブレッド」を使ったレシピ キャベツたっぷりサンド

材料(2人分)

- ロイヤルブレッド6枚切 … 2枚
- マヨネーズ …………… 適量
- キャベツ …………… 4~5枚
- 玉ねぎ …………… 少々
- 塩・粗びき黒こしょう …… 少々
- スライスチーズ …………… 1枚
- ベーコン …………… 1枚
- 粒マスタード …………… 大さじ1



つくり方

- ① キャベツは千切り、玉ねぎは薄くスライスし、マヨネーズ、塩・粗びき黒こしょうと混ぜ合わせます。
- ② 1枚のパンにスライスチーズと半分に切ったベーコンをのせて、もう1枚のパンとともにトースターで焼きます。
- ③ ②の具材がのっていない方に粒マスタードを塗り、①をたっぷりはさみ、食べやすい大きさに切ります。



TV-CM
ロイヤルブレッド
「本当のおいしさ」篇
出演 松たか子

2個入り生ケーキのご紹介

2個入り生ケーキは、値段感があり、お気軽にお楽しみいただける生ケーキです。「苺のショートケーキ」や「モンブラン」、「チーズスフレ」など、お子様から大人の方まで幅広い年齢層のお客様からご支持いただいております。

また、素材や製法にこだわった高品質・高付加価値で本格的な生ケーキとして、「バスク風チーズケーキ」や「イタリアンプリンタルト」などのご用意もごございます。

お気軽に楽しめるものや、お客様のニーズに応じた高付加価値のものなど、お好みに合わせてお選びいただけるよう、多彩なラインアップを取り揃えております。



主力製品

● 苺のショートケーキ

苺コンフィチュールをサンドし、北海道産生クリームを使用したホイップクリームでデコレーションしました。



● モンブラン

ふわふわのスポンジ生地にホイップクリームと口どけの良いマロンクリームをトッピングしました。

高付加価値製品

● バスク風チーズケーキ

ふんわりなめらかに仕上げたバイクドチーズケーキにカラメルをトッピングし、しっとり焼きあげました。



● イタリアンプリンタルト

生クリームとクリームチーズが入ったココのあるプリンを、エッグタルトに重ねました。



公益財団法人 ^{ファイダー} 国際開発救援財団(FIDR)

国際協力活動および緊急援助活動を推進しています

当社は、国際社会からの要請に応える社会貢献への取組みの一環として、開発途上国および自然災害被災地の人々がよりよい生活ができることを願い、公益財団法人国際開発救援財団 ^{ファイダー} (FIDR) への支援を通じ、国際協力活動と緊急援助活動を推進しております。

● FIDRへの支援

FIDRは、1990年に当社創業者の故・飯島藤十郎社主が主たる基本財産を出捐して特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) を支援する目的で設立した民間の援助団体で、本年4月に設立30周年を迎えました。

現在は、子どもの未来を育む「チャイルド・ケア」と「日本企業と日本人による国際協力の推進」をミッションに掲げ、開発途上国の人々の生活環境の向上と発展を目的とした国際協力援助事業と、国内外の自然災害に対する緊急援助事業を実施しております。

現在は、カンボジア、ベトナム、ネパールで、医療、保健衛生、教育、農業、栄養、収入向上などの分野において、地域に根ざした援助活動を行っています。また、東日本大震災や熊本地震、平成30年7月豪雨災害、令和元年東日本台風による水害等、自然災害への緊急援助活動にも積極的に取り組んでいます。

当社はこれらの活動を積極的に支援しております。

● 子どもへの医療支援活動

FIDRは、アジアの中で特に医療技術が遅れているカンボジアで、1996年から20年間にわたり、子どもが適切な外科診療を受けられるよう、首都プノンペンにある国立小児病院を中心に施設の改善と医師や看護師の養成に取り組んでまいりました。

これにより都市部での医療体制は大きく改善したものの、地方には適切な診療を受けられない子どもたちが多くいることが課題でした。FIDRは、2016年からカンボジア北東部にあるクラチェ州で小児外科の診療体制の強化をはかるべく、新たな取組みを進めております。その拠点となるクラチェ州病院の外科病棟は狭く老朽化しているため、昨年からは衛生的な新病棟の建設作業を進めております。



クラチェ州病院に入院中の赤ちゃん
(カンボジア)

● 大地震で倒壊した学校の再建活動

ネパールでは、2015年に発生した大地震により学校が倒壊するなど、子どもたちが学ぶ環境が失われました。FIDRは、震災から2年の間にダーディン郡等で104の仮設教室の設置と6校の校舎の再建・修復を行いました。昨年は、ラメチャップ郡の2校で鉄筋コンクリート造りの2階建て校舎の建設が完了し、安全・安心な学習環境を回復することができました。これらの建設作業には多くの地域住民が参加しており、この再建活動を機に今後の地域発展に弾みがつくことと期待されます。



大地震からの復興を支援するために校舎再建を支援
(ネパール)

FIDRホームページのご案内

FIDRの援助活動は、FIDRの法人賛助会員、個人賛助会員など多くの方々のご支援を受けて実施しております。FIDRの活動の詳細、支援方法などにつきましては、下記のホームページで紹介しておりますので、是非ご覧ください。

<http://www.fidr.or.jp/>

● 新型コロナウイルス感染症への対応

本年は、新型コロナウイルス感染症の流行により、日本を含むFIDRの活動国で感染予防対策が急務となりました。しかし、カンボジア、ベトナム、ネパールでは、国内でのウイルス検査や治療の体制が十分に整っておらず、衛生物資も不足しております。感染予防に有効な公衆衛生の知識や習慣がない人々も少なくありません。FIDRは、現地での行政機関からの要請に応じ、ベトナムでは医療用手袋50,000組とアルコール消毒液2,500リットル、石鹸約15,000個を提供し、カンボジアではマスク7,000枚と体温計27本、アルコール噴霧器1台を提供するとともに、手洗いや体調管理の行動に関する啓発を行いました。

日本国内でも、東京都内の医療機関や福祉施設の業務を支援するため、サージカルマスクやアルコール消毒液、医療用防護服をFIDRの支援企業の協力を得て寄贈いたしました。



中部山岳地の医療・保健施設へ衛生物資を支援
(ベトナム)

ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金への協力

当社は、FIDRとWVJが共催・実施しているヤマザキ「ラブ・ローフ」募金に協賛し、約4,000の販売店に募金箱を設置しております。これまでの募金はFIDRとWVJを通じて、アフリカやアジアの開発途上国での援助活動などに役立てられております。



貸借対照表のポイント

流動資産

受取手形及び売掛金が317億94百万円減少したこと等により、流動資産合計で246億65百万円減少し、2,371億74百万円となりました。

有形・無形固定資産

有形固定資産は、生産能力の増強や品質向上のための生産設備の更新等を実施しましたが、償却が進んだこともあり30億69百万円減少、また無形固定資産は、のれんの償却等により3億58百万円減少し、有形・無形固定資産合計は3,364億80百万円となりました。当第2四半期の設備投資額は、159億48百万円、減価償却実施額は180億10百万円であります。

投資その他の資産

所有株式株価の下落により投資有価証券が減少したこともあり65億1百万円減少し、1,198億99百万円となりました。

負債合計

仕入債務等の減少や借入金の約定返済により、負債合計は311億49百万円減少し、3,385億82百万円となりました。

純資産合計

その他有価証券評価差額金等が減少したことにより、純資産合計は34億45百万円減少し、3,549億71百万円となりました。

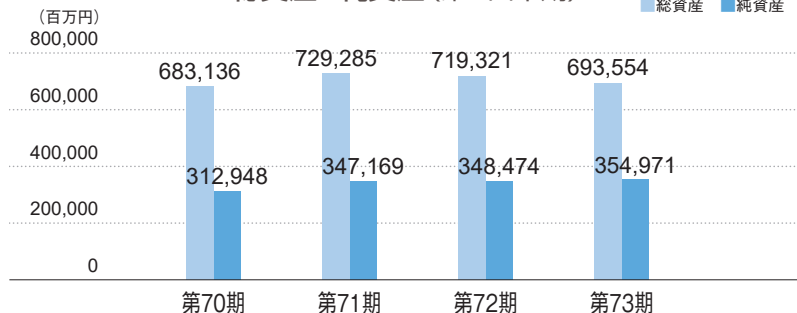
四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

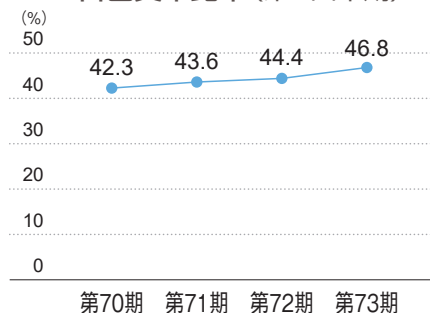
科目	当第2四半期末 2020年6月30日現在	前期末 2019年12月31日現在	増減
資産の部			
流動資産	237,174	261,839	△24,665
固定資産	456,379	466,309	△9,929
有形固定資産	314,414	317,483	△3,069
無形固定資産	22,066	22,424	△358
投資その他の資産	119,899	126,401	△6,501
資産合計	693,554	728,149	△34,594
負債の部			
流動負債	198,091	224,073	△25,982
固定負債	140,491	145,658	△5,167
負債合計	338,582	369,732	△31,149
純資産の部			
株主資本	312,627	312,082	545
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,660	9,667	△6
利益剰余金	297,194	296,642	552
自己株式	△5,241	△5,241	△0
その他の包括利益累計額	11,624	15,171	△3,547
非支配株主持分	30,719	31,162	△443
純資産合計	354,971	358,416	△3,445
負債純資産合計	693,554	728,149	△34,594

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

総資産・純資産(第2四半期)



自己資本比率(第2四半期)



損益計算書のポイント

売上高

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるコンビニエンスストアチェーンとの取引減少やベーカリー等の小売業の落ち込みにより、菓子パンや調理パン・米飯類の売上が伸び悩み、前年同期に比べ3.1%の減収となりました。

営業利益

賃借料や広告費等の経費の減少はありましたが、減収が大きく、売上原価率が前年同期を0.6%上回ったこともあり、前年同期に比べ26.7%の減益となりました。

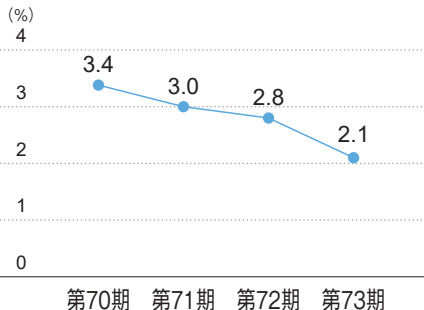
経常利益

前年同期に比べ26.2%の減益で、売上高経常利益率は2.1%となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

特別損失の減少はありましたが、減収が大きく、前年同期に比べ37.6%の減益となりました。

売上高経常利益率(第2四半期)



四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2020年1月1日から 2020年6月30日まで	前第2四半期 2019年1月1日から 2019年6月30日まで	増減
売上高	507,826	524,041	△16,215
売上原価	329,607	337,020	△7,412
売上総利益	178,218	187,021	△8,802
販売費及び一般管理費	168,349	173,558	△5,208
営業利益	9,868	13,462	△3,593
営業外収益	1,807	2,074	△267
営業外費用	773	753	19
経常利益	10,902	14,783	△3,880
特別利益	109	65	44
特別損失	1,174	1,708	△534
税金等調整前四半期純利益	9,837	13,139	△3,301
法人税等合計	4,851	5,080	△229
四半期純利益	4,986	8,059	△3,072
非支配株主に帰属する四半期純利益	86	211	△124
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,899	7,848	△2,948

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2020年1月1日から 2020年6月30日まで	前第2四半期 2019年1月1日から 2019年6月30日まで	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,324	35,382	2,941
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,181	△19,401	220
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,204	△12,348	3,144
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	△29	26
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	9,935	3,602	6,333
現金及び現金同等物の期首残高	105,916	106,423	△507
現金及び現金同等物の四半期末残高	115,851	110,025	5,825

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務諸表（単体）

四半期貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 2020年6月30日現在	前期末 2019年12月31日現在	増減
資産の部			
流動資産	136,462	149,929	△13,467
固定資産	387,082	393,496	△6,414
有形固定資産	207,071	209,264	△2,193
無形固定資産	4,817	4,129	688
投資その他の資産	175,193	180,102	△4,909
資産合計	523,544	543,425	△19,881
負債の部			
流動負債	131,118	147,514	△16,395
固定負債	89,760	91,743	△1,983
負債合計	220,878	239,257	△18,379
純資産の部			
株主資本	279,431	275,887	3,544
資本金	11,014	11,014	—
資本剰余金	9,676	9,676	—
利益剰余金	263,982	260,437	3,544
自己株式	△5,241	△5,241	△0
評価・換算差額等	23,233	28,280	△5,047
純資産合計	302,665	304,167	△1,502
負債純資産合計	523,544	543,425	△19,881

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 2020年1月1日から 2020年6月30日まで	前第2四半期 2019年1月1日から 2019年6月30日まで	増減
売上高	367,820	376,221	△8,400
売上原価	246,271	252,674	△6,402
売上総利益	121,548	123,546	△1,997
販売費及び一般管理費	111,093	113,353	△2,259
営業利益	10,454	10,193	261
営業外収益	2,403	2,853	△449
営業外費用	655	623	31
経常利益	12,203	12,422	△219
特別利益	67	57	10
特別損失	727	1,413	△686
税引前四半期純利益	11,543	11,066	476
法人税等合計	3,651	3,465	185
四半期純利益	7,892	7,601	291

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

YAMAZAKI インフォメーション

ヤマザキ「秋のわくわくプレゼント」

2020年9月1日（火）から11月15日（日）までの期間中、ヤマザキ「秋のわくわくプレゼント」キャンペーンを実施いたします。

対象製品についている点数券を6点分集めてご応募いただくと、抽選で総計40,000名様に素敵な賞品をプレゼントいたします。

詳しくは対象製品のパッケージまたは当社ホームページをご覧ください。

Aコース ヤマザキグループ お菓子のびっくり箱

Bコース ヤマザキオリジナル QUOカード(5,000円分)

株主優待情報

株主様の日頃のご支援にお応えするため、毎年12月31日現在の株主様（ご所有株式数1,000株以上）に対し、市価3,000円相当の自社製品の詰合せを毎年4月にお届けいたします。



写真は本年4月にお届けしたものです。

株主優待制度は、当社株式1,000株(単元株式数100株×10単元)以上を所有されている株主様を対象といたします。

ホームページのご案内

投資家の皆様向けの「決算・IR情報」をはじめ、製品情報やおすすめのレシピなど、さまざまな情報を公開しています。



<http://www.yamazakipan.co.jp/>



株式の状況 (2020年6月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	800,000,000株
発行済株式総数	220,282,860株
株主総数	17,981名 (前期末比1,798名増)

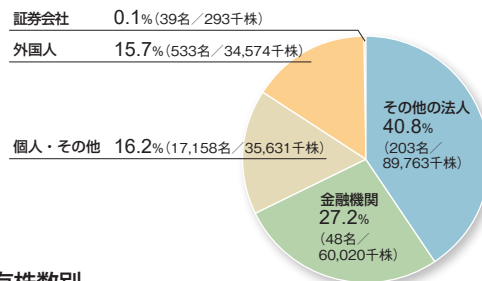
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
飯島興産株式会社	18,777,895	8.6
公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団	12,500,000	5.7
株式会社日清製粉グループ本社	11,062,343	5.0
三菱商事株式会社	9,849,655	4.5
住友商事株式会社	9,355,000	4.3
丸紅株式会社	8,165,880	3.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,644,800	3.5
明治安田生命保険相互会社	6,501,500	2.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,088,100	2.3
株式会社みずほ銀行	3,946,419	1.8
株式会社三井住友銀行	3,946,419	1.8

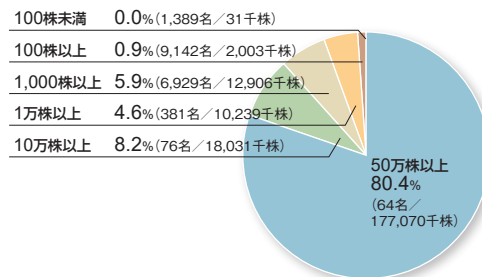
(注) 持株比率は、自己株式(2,891,597株)を控除して算出しております。

株式分布状況

●所有者別



●所有株数別



役員・従業員 (2020年6月30日現在)

役員

代表取締役社長	飯島 延浩	取締役	吉田谷良一
取締役副社長	飯島佐知彦	取締役	山田 裕樹
取締役副社長	飯島 幹雄	取締役	荒川 弘
専務取締役	横濱 通雄	取締役	島田 秀男 (社外取締役)
専務取締役	会田 正久	取締役	畑江 敬子 (社外取締役)
専務取締役	犬塚 勇	常勤監査役	大本 一弘
専務取締役	関根 治	常勤監査役	松田 道弘 (社外監査役)
専務取締役	深澤 忠史	常勤監査役	佐藤 健司
常務取締役	園田 誠	監査役	齋藤 昌男 (社外監査役)
取締役	荘司 芳和	監査役	馬場久萬男 (社外監査役)

従業員

連結	29,521名 (男性22,224名、女性7,297名)
当社	19,969名 (男性15,777名、女性4,192名)

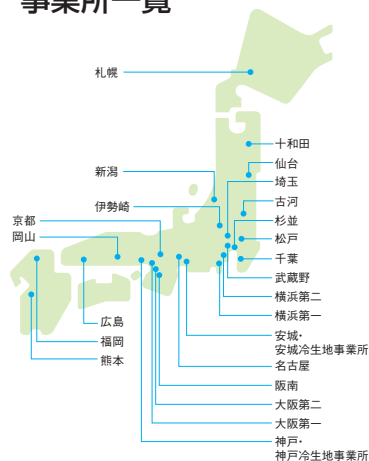


重要な子会社

会社名	資本金(百万円)	当社の議決権比率(%)	主要な事業内容
株式会社不二家	18,280	54.1	洋菓子、チョコレート、キャンディ、クッキー等の製造及び販売
株式会社サンデリカ	2,000	100.0	調理パン、米飯類等の製造及び販売
ヤマザキビスケット株式会社	1,600	80.0	ビスケット、スナック等の製造及び販売
株式会社東ハト	2,168	95.4	ビスケット、スナック等の製造及び販売
株式会社ヴィ・ド・フランス	480	100.0	ベーカリーカフェの経営
株式会社イケダパン	1,250	80.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造及び販売
大徳食品株式会社	100	100.0	麺類の製造及び販売
ヴィ・ド・フランス・ヤマザキ,Inc. (米国)	5,000千US\$	100.0	ベーカリー製品の製造及び販売並びにベーカリーカフェの経営
株式会社ヴィ・ディー・エフ・サンロイヤル	236	100.0	パン用冷凍生地等の製造及び販売並びにインスタベーカリーの経営
株式会社サンキムラヤ	100	100.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造及び販売
株式会社スリーエスフーズ	480	100.0	パンの製造及び販売
株式会社高知ヤマザキ	100	100.0	パン、和・洋菓子等の製造及び販売
株式会社末広製菓	100	100.0	米菓、調理パン、米飯類等の製造及び販売
株式会社ヤマザキ物流	300	100.0	物流事業
株式会社サンロジスティックス	380	100.0	物流事業
株式会社ヤマザキエンジニアリング	80	100.0	食品製造設備の設計、監理及び工事の請負

- (注) 1. 当社は、2020年2月18日付で(株)不二家の普通株式42,200株を追加取得し、議決権比率は54.1%となりました。
 2. 大徳食品(株)は、(株)サンデリカ全額出資の子会社であり、当社の議決権比率は間接所有割合であります。
 3. (株)サンロジスティックスは、当社と(株)ヤマザキ物流がそれぞれ50%ずつ出資しており、当社の議決権比率は間接所有を含む割合であります。
 4. 連結子会社は、上記重要な子会社16社を含む30社であります。

事業所一覧



本社	東京都千代田区岩本町3-10-1	大阪第一工場	大阪府吹田市幸町29-1
松戸工場	千葉県松戸市南花島向町319	神戸工場	兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1
千葉工場	千葉県千葉市美浜区新港22	大阪第二工場	大阪府松原市三宅東2-1835-5
武蔵野工場	東京都東久留米市柳窪2-5-14	阪南工場	大阪府羽曳野市広瀬161
埼玉工場	埼玉県所沢市坂之下85	京都工場	京都府宇治市横島町目川100
杉並工場	東京都杉並区高井戸西3-2-30	名古屋工場	愛知県名古屋市中区玉池町36
横浜第一工場	神奈川県横浜市戸塚区上柏尾町15	安城工場	愛知県安城市二本木新町2-1-3
横浜第二工場	神奈川県横浜市都筑区東方町188	岡山工場	岡山県総社市井尻野800
古河工場	茨城県古河市丘里7	広島工場	広島県広島市安佐北区大林2-3-1
伊勢崎工場	群馬県伊勢崎市粕川町1801	福岡工場	福岡県古賀市古賀69
仙台工場	宮城県柴田郡柴田町槻木白幡2-9-1	熊本工場	熊本県宇城市松橋町浦川内2388
新潟工場	新潟県新潟市江南区二本木4-12-8	安城冷生地事業所	愛知県安城市二本木新町2-1-3
十和田工場	青森県十和田市稲生町1-13	神戸冷生地事業所	兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1
札幌工場	北海道恵庭市恵南10-1	海外駐在員事務所	米国、パリ、台北、上海、ジャカルタ、ホーチミン

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当の基準日	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
定時株主総会の基準日	毎年12月31日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公 告 方 法	電子公告によるものとし、当社のホームページ (http://www.yamazakipan.co.jp/ir/koukoku/) に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株 式 の 上 場	東京証券取引所市場第1部

株式に関する手続き

- 株式に関する各種手続き(住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いしております。詳しくは、お取引の証券会社にお問い合わせください。

- 株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていない株主様の株式につきましては、特別口座で管理されております。特別口座に関する各種手続き(証券会社の口座への振替(※)、住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、三井住友信託銀行にてお取扱いいたします。

(※)証券会社の口座への振替について

特別口座では株式の売買を行うことはできません。売買を行う場合は証券会社の口座に株式を振り替えてください。

・証券会社の口座をお持ちでない株主様は、あらかじめ証券会社で口座開設をしてください。

・単元未満株式の買増請求・買取請求につきましては、特別口座のまま行うことができます。

特別口座に関する各種手続きに必要な用紙のご請求は、上記のフリーダイヤルまたは下記のホームページで受付しております。

◎ ホームページアドレス <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

- 未払配当金のお受取りにつきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行にてお取扱いいたします。